

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	大國 康夫
事業所名	あすならホーム柳本	管理者	森川 剛志
法人・事業所の特徴	お年寄りから子どもまで、みんなが安心して暮らせる地域や町であってほしい。それが私たちの願いです。という目標を持ち、グループホーム・小規模多機能・地域サロンの子ども食堂等を運営しています。		

出席者	市町村職員	1人	知見を有するもの	人	地域住民・地域団体	6人	利用者	1人	利用者家族	2人	地域包括支援センター	1人	近隣事業所	人	事業所職員	6人	その他	人	合計	17人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	風通しが良く、働きやすい職場環境をさらに整えていく。利用者を第一に考えて利用者の楽しみを増やしていく。	退職者もほとんどなく、風通しの良い職場になってきている。お誕生日の方を中心に利用者の行きたい場所や花見や紅葉等の季節の外出も出来た。	良い意見が多かった。若干、わからないとの意見もあったが、事業所の行なう自己評価について、評価して頂けた。	事業所全体で働きやすい職場の雰囲気・環境を整える。利用者、やりたいことを実現していく、楽しみのある生活を組み立てる
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き感染症対策は万全に行かない、安心して来て頂ける環境を整える。事業所内も居心地が良いと感じて頂けるように環境整備する。	感染症予防を行わない、面会も居室で出来るように状況を見ながら、緩和を行なった。サロンの配置を見直し、ランチ、買物バスと再開して、地域の方も多く訪れるようになった。	良い意見が多かった。前回はわからないとの意見もあったが、ホームで会議が行えるようになり、見てもらえたのが良かった。	地域の方が、いつ入っても気を使わない雰囲気や環境を整えている。引き続き感染症対策には気を付けて、安心して面会でできる環境を整える。
C. 事業所と地域のかかわり	地域学習会は2回（春・秋）には継続して実施する。コロナ禍で少し希薄になった、地域とのつながりを再構築する。	地域学習会を春・秋に計7回実施出来た。柳本独自の学習会も実施出来た。ランチ・買物バスを再開し、地域の方との繋がりの再構築に努めた。	良い意見が多かった。地域学習会やランチ・買物バスを行なっており、良い意見が多かったと思われる。	地域学習会や公民館での学習会を継続して実施する。ランチ・買物バス等を通して、より多くの地域の方と繋がりが持てるように取り組む。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナの状況を考慮しながら、感染症対策を行なったうえで、地域の行事に積極的に参加する。情報収集も継続して行なう。	黒塚古墳への花見や伊弉諾神社への初詣等、地域へ出ることが出来た。地域の行事である、柳灯会等へも参加することが出来た。情報収集はサロン等で行った。	良い意見が多かった。わからないとの意見も一定数見られた。	地域の行事に利用者と一緒に積極的に参加する。地域に行事等の情報収集も引き続き行なう。
E. 運営推進会議を活かした取組み	多くの方に参加して頂けるようにアプローチャする。実施が難しい時には、継続して自宅を訪問して説明する。	9月からホームでの会議を再開できたが、参加人数はまだ戻っていない。9月までは自宅や役所に訪問し、取組等の説明を行なった。	良い意見が多かった。9月から顔を合わせても会議が再開出来たこともあり、良い意見が多かったと思われる。	多くの方に対面での運営推進会議に参加して頂けるようにアプローチャを続ける。運営推進会議を通して、地域の取組等の情報を取り入れる。
F. 事業所の防災・災害対策	今後、地域の方も参加して頂き一緒に防災訓練を行なう。地域の防災訓練に呼ばれるようにアプローチャする。	地域の方と一緒に防災避難訓練を行なうことが出来た。地域の防災会議にも施設職員が参加している。	良い意見が多かった。施設の防災計画や訓練についてはわからないとの意見も一定数見られた。	多くの地域の方にも参加して頂けるように働きかけをしていく。地域の防災会議にも積極的に参加していく。